

講座共通

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講学期	曜日	講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
東洋文化学特論Ⅰ	東洋文化学研究法Ⅰ	2	川合 安、矢田 尚 子 齋藤 智寛	1学期	月	2	
東洋文化学特論Ⅱ	東洋文化学研究法Ⅱ	2	三浦 秀一、大野 晃嗣、土屋 育子	2学期	月	2	

科目名：東洋文化学特論 I / Asian Culture and History(Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

semester：1 学期， 単位数：2

担当教員：川合 安・矢田 尚子・齋藤 智寛（教授、准教授）

講義コード：LM11207， 科目ナンバリング：LAL-OAR501J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

東洋文化学研究法 I

2. Course Title (授業題目)：

Research Methods in Chinese Studies I

3. 授業の目的と概要：

東洋文化の拡がりを知る上で欠くことのできない古代・中世の中国に関する諸研究の多面的な方法やその長い歴史・現在の潮流などを、中国古代中世の文学、思想、歴史を専門とする教員が、個別の講義および各種原典史料等の読解を中心とした実習を通じて紹介する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

5. 学習の到達目標：

古代・中世の中国に関する諸研究の方法やその歴史・潮流などの知識を、体系的に学習する。
獲得した知識を活用し、みずからの研究方法を洗練させる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：ガイダンス

第2回：中国古代・中世史研究の諸問題 1

第3回：中国古代・中世文学研究の諸問題 1

第4回：中国古代・中世思想研究の諸問題 1

第5回：中国古代・中世史研究の諸問題 2

第6回：中国古代・中世文学研究の諸問題 2

第7回：中国古代・中世思想研究の諸問題 2

第8回：中国古代・中世史研究の諸問題 3

第9回：中国古代・中世文学研究の諸問題 3

第10回：中国古代・中世思想研究の諸問題 3

第11回：中国古代・中世史研究の諸問題 4

第12回：中国古代・中世文学研究の諸問題 4

第13回：中国古代・中世思想研究の諸問題 4

第14回：まとめ 1

第15回：まとめ 2

8. 成績評価方法：

レポート試験（50%）、授業への参加態度（50%）

9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、授業の際にプリントを配付する。

参考書はそれぞれの授業ごとに紹介する予定だが、全般的なものとしては、下記のとおり。

吉川幸次郎監修『新訂中国古典選』全21冊、朝日新聞社、1965年～1974年

吉川幸次郎、小川環樹監修『中国文明選』全15冊、朝日新聞社、1971年～1976年

島田虔次ほか編『アジア歴史研究入門』全5巻、同朋舎、1983年～1987年

10. 授業時間外学習：

授業時間内に紹介された参考文献には必ず目を通し、それらの内容をまとめておくとともに、みずからの研究と関連の深い文献に関しては、その周辺の事項なども含めて独自に調査をおこない、理解の幅を拡げておく。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

東洋文化学専攻所属の大学院生は、東洋文化学特論 I・同 II の履修を必須とする。

科目名：東洋文化学特論Ⅱ／Asian Culture and History(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 月曜日 2 講時

Semester：2 学期， 単位数：2

担当教員：三浦 秀一・大野 晃嗣・土屋 育子（教授）

講義コード：LM21202， 科目ナンバリング：LAL-OAR502J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

東洋文化学研究法Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：

Research Methods in Chinese Studies II

3. 授業の目的と概要：

東洋文化の拡がりを知る上で欠くことのできない近世・近代の中国に関する諸研究の多面的な方法やその長い歴史・現在の潮流などを、中国近世近代の文学、思想、歴史を専門とする教員が、個別の講義および各種原典史料等の読解を中心とした実習を通じて紹介する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

5. 学習の到達目標：

近世・近代の中国に関する諸研究の方法やその歴史・潮流などの知識を、体系的に学習する。
獲得した知識を活用し、みずからの研究方法を洗練させる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：ガイダンス

第2回：中国近世・近代史研究の諸問題 1

第3回：中国近世・近代文学研究の諸問題 1

第4回：中国近世・近代思想研究の諸問題 1

第5回：中国近世・近代史研究の諸問題 2

第6回：中国近世・近代文学研究の諸問題 2

第7回：中国近世・近代思想研究の諸問題 2

第8回：中国近世・近代史研究の諸問題 3

第9回：中国近世・近代文学研究の諸問題 3

第10回：中国近世・近代思想研究の諸問題 3

第11回：中国近世・近代史研究の諸問題 4

第12回：中国近世・近代文学研究の諸問題 4

第13回：中国近世・近代思想研究の諸問題 4

第14回：まとめ 1

第15回：まとめ 2

8. 成績評価方法：

レポート試験（50%）、授業への参加態度（50%）

9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、授業の際にプリントを配付する。

参考書はそれぞれの授業ごとに紹介する予定だが、全般的なものとしては、下記のとおり。

吉川幸次郎監修『新訂中国古典選』全21冊、朝日新聞社、1965年～1974年

吉川幸次郎、小川環樹監修『中国文明選』全15冊、朝日新聞社、1971年～1976年

島田虔次ほか編『アジア歴史研究入門』全5巻、同朋舎、1983年～1987年

10. 授業時間外学習：

授業時間内に紹介された参考文献には必ず目を通し、それらの内容をまとめておくとともに、みずからの研究と関連の深い文献に関しては、その周辺の事項なども含めて独自に調査をおこない、理解の幅を拡げておく。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practicalbusiness

12. その他：

東洋文化学専攻所属の大学院生は、東洋文化学特論Ⅰ・同Ⅱの履修を必須とする。

